

## 重要取組シート

取組項目		堺が進める「新たな学校のあり方」
現状・課題		<ul style="list-style-type: none"> <li>○急激に変化する時代に、子どもたちが社会で自分らしく生きていけるよう、自ら考え、判断し、行動する力を身に付けるための教育を実践する必要がある。</li> <li>○また、日々の学習、友人関係、中学校進学に対する不安のほか、できることや対応が学校規模によって違う場合がある等、子どもや保護者の身近な不安や悩みに寄り添える学校であることも大切である。</li> <li>○子どもや教職員の人数、立地、校区内にある教育資源や抱える課題等は多種多様である。それぞれの学校が実情にあった対応を進められるよう、自主性・自律性に富んだ自立した学校運営ができる環境を作ることが求められている。</li> <li>○昨年度は、基礎固めとして一定の成果が認められ、教員の意識や行動に変容が見られた。このことにより、学校風土の変化に向けた素地が整い始めている。また、児童生徒が安心して学校生活を送り、これまでの人間関係を基盤としながら学校群内での関わりを広げている様子が見られるなど、取組が着実に浸透しつつある。</li> </ul>
取組の内容		<ul style="list-style-type: none"> <li>○同じ中学校区にある小学校と中学校を1つのチーム（学校群）として考え、相互に連携する。そのことにより、各学校の抱える課題や必要性に応じて、それぞれの学校が持つ教職員の専門性や得意分野といった「強み」や、学校の立地に応じた環境、地域の力などの「資源」を生かした学校運営を行うための枠組みを構築する。</li> <li>○全中学校区で実践する2年めとなる令和8年度には、学校全体で持続的な学校運営ができるよう、学校間で議論・調整するための体制の構築、9年間でめざす子ども像・目標の設定、目標の実現に向けた取組の実践を行う。</li> <li>○教育委員会事務局においては、学校・教職員がつながりを意識し、主体的な実践を円滑に行うことができるよう、他者参照の観点から、各学校の実践事例や実践にあたってのアイデア・工夫の収集・発信を行う。</li> <li>○また、学校のできることを増やす観点から、学校群の枠組みを生かし、これまでのあたり前やルールの見直しを進める。</li> </ul>
スケジュール	前期 (～9月)	<input type="checkbox"/> 学校：それぞれの学校が必要と考える教育活動の実践（4～9月） <input type="checkbox"/> 教育委員会事務局：これまでのあたり前やルールの見直し（4～9月）
	後期 (～3月)	<input type="checkbox"/> 学校：それぞれの学校が必要と考える教育活動の実践（10～3月） <input type="checkbox"/> 教育委員会事務局：これまでのあたり前やルールの見直し（10～3月）
	次年度以降	<input type="checkbox"/> 第4期未来をつくる堺教育プランの計画期間（令和8～12年度）を念頭に、新たな学校のあり方の枠組みの定着・浸透・日常化をめざす

進捗の状況	前期 (～9月)		
	後期 (～3月)		
2030 堺市基本計画	該当する 施策	3- (2) こどもの可能性を伸ばし未来を切り拓く力を育む教育の推進	
	寄与する KPI	学力が伸びた児童生徒の割合 現状値 (2025年度) 小5 国語：77.5% 算数：68.7% 中2 国語：59.4% 数学：79.1%	目標値 (2030年度) 小5 国語：83.0% 算数：74.0% 中2 国語：70.0% 数学：84.0%
未来都市計画 堺市SDGs	最も貢献する SDGsのゴール	ゴール番号 4	質の高い教育をみんなに
	寄与する KPI	学力が伸びた児童生徒の割合 現状値 (2025年度) 小5 国語：77.5% 算数：68.7% 中2 国語：59.4% 数学：79.1%	目標値 (2030年度) 小5 国語：83.0% 算数：74.0% 中2 国語：70.0% 数学：84.0%